

嶋満神社便り

令和五年七月号(第四十一号)

発行 嶋満神社奉賛会

久美浜のパワースポット、神谷神社

京丹後市の久美浜町に鎮座する神谷神社、その敷地内には「神谷磐座…かみたにいわくら」と呼ばれる巨大な岩がご神体として祀られています。

こちらは平安時代の神名帳にもその名がみえる由緒深い「式内社」です。御祭神は第十代崇神天皇の時代に全国を平定するために使わされた「四道將軍」の一人「丹波道主命」…たんばみちぬしのみこと…。

その由緒ある神社の磐座が最近あることで全国的に有名になり、観光客が急増したとか。そのあることとは…「鬼滅の刃」…この岩が、主人公が修行で切っていた岩に似ているのだそうです。もともとここらは丹波道主命の佩刀をご神体とする太刀宮神社…たちのみやじんじや…が合祀されていることから鬼滅の刃ブームに乗って人気急上昇…そう聞けば行かないわけにはまいりませぬ。



神谷磐座 「京丹後ナビ」より

で、早春の一日、丹後鉄道に乗って行ってまいりました。神谷神社へは車道を行かず、一の鳥居から正式な参道を行きましよう。

大鳥居をくぐってしばらく進む、清涼なせせらぎに架かる小橋を行くとそこはもう神聖なる本殿の前。お参りを済ませて旧道である小道を渡ると目の前の小山には「神谷磐座」と書かれた案内板、その後方には見る人を圧倒する巨石群…。



神谷神社 一の鳥居

何か本当にパワーをいただいで、すがすがしさとともに元気がみなぎってくる感じがしました。ところで久美浜の「久美」は古来、「国見」とも表記することから、丹波道主命の佩刀「国見の剣」に由来するという説もあるようです。

「国見」とは古来、その土地を治める人だけが行う行事のこと、あの仁徳天皇が高いところから民の生活を見て自身の仁政を敷かれる元にされたというアレです。つまりこの地方にはそのような身分の高い人が居て、古くから拓けた地域だったという推測もできるのです。

久美浜・街歩き

さて久美浜には神谷神社だけでなく、見どころとなるスポットもいっぱいあります。参拝のあとはタモリになった気分ですらぶらぶら街歩きをしてみましよう。

久美浜駅舎は明治の初めに久美浜に置かれた旧県庁（久美浜県）の庁舎を再現したとか。重厚な造りが「鉄っちゃん」でもある筆者の胸に迫ります。



久美浜駅舎

その他、町内には味のある家並みや古い建築物も多く残り、古代だけでなく近世の繁栄も偲ばせてくれます。千石船で財を成した旧家や、三階建ての立派な茶屋を改装したカレー屋さん、二軒の日本酒蔵元もあり、魅力満載、紙面ではとても紹介しきれません。

皆様もローカル線に揺られて奥丹後の古代、近世のロマンに触れに行かれてみてはいかがでしょうか？



豪商 稲葉本家

本年度も浮島会様の主催により、八月の例祭が執り行われます。詳細は追って別紙にてご案内いたします。準備と式典参列に関し、会員の皆様のご協力をよろしく願います。